令和７年６月藤沢市議会定例会
建設経済常任委員会資料

藤沢市都市マスタープランの改定について（中間報告）

１　はじめに

「藤沢市都市マスタープラン」（以下「本計画」といいます。）は、概ね２０年後の都市の姿を展望して、都市計画の基本的な方針を定めたものです。

本計画の改定（平成２３年）から、本市を取り巻く環境も大きく変化しつつあることと併せ、本計画は「藤沢市都市交通計画」等の分野別計画を策定する際の指針としても、役割を担っており、これら分野別計画の改定経過を踏まえ、本計画が更に先を見据えた方針を示す時期にきていると捉えて、改定に向けた取組を進めています。

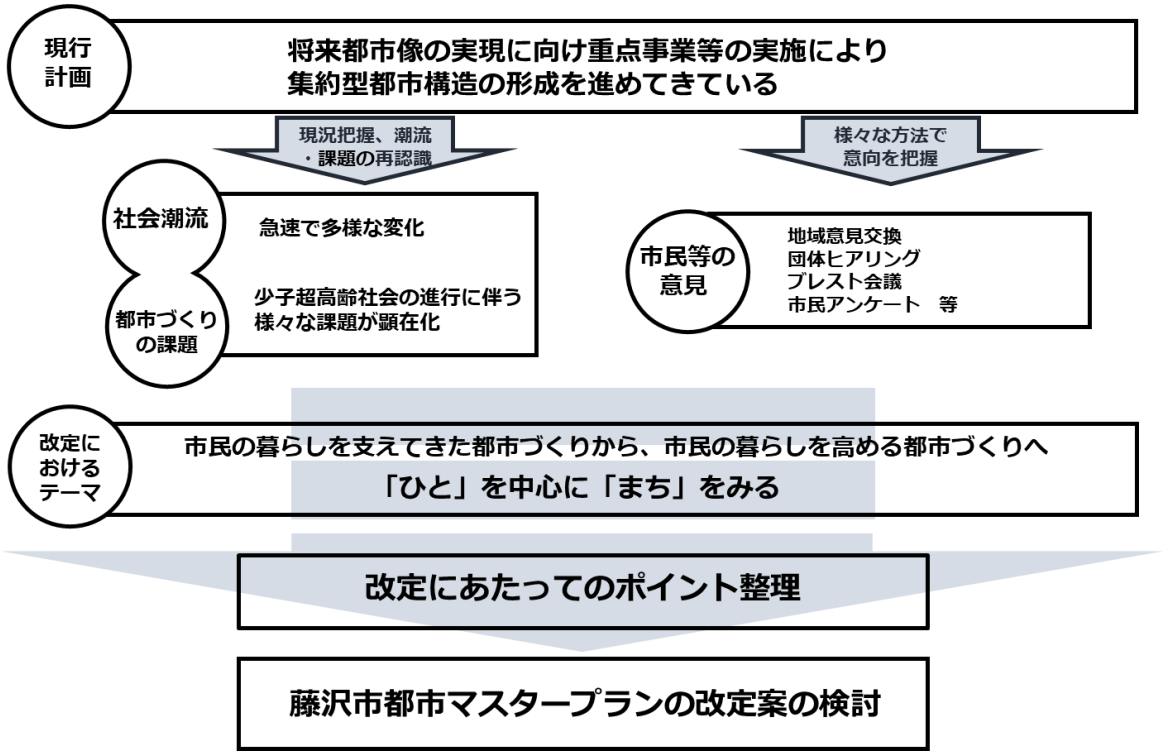
改定にあたっては、藤沢市都市マスタープラン策定協議会で検討するとともに、藤沢市都市計画審議会への報告や藤沢市都市マスタープラン改定庁内調整会議等による調整を行いながら、今年度末の改定をめざしています。

２　改定に向けた取組状況

本計画では、平成１１年の計画策定の当初から現在に至るまで、集約型都市構造の構築をめざし、都市基盤の整備や都市拠点の創出・充実等を着実に進めてきました。

本市においては、人口のピークを目前に控え、人口構成の大きな変化や価値観の多様化等が進み、成熟社会における都市として、現行計画の将来都市構造を継承しつつ、変化を見据えた調整やこれまで築いてきた基盤の維持更新を図るフェーズに入ってきています。

このような背景を踏まえ、改定におけるテーマやポイントを整理し、次のとおり、検討を進めています。



３　社会潮流や都市づくりの課題

（１）社会潮流

社会潮流の全てが必ずしも都市空間に強く影響するものではありませんが、近年の急速な社会の変化を踏まえると、予測しにくい未来について都市づくりにおいては、長期的な方針を持ちつつ、一方で臨機応変に対応できることが必要と考えます。

人口構成の変化や多様化する暮らし方

人口減少及び少子超高齢社会の進行
地域への関わり方の多様化
ライフスタイル・ワークスタイルの多様化
量的から質的な豊かさ

様々な社会的課題への対応

脱炭素社会の実現
自然災害の激甚化・頻発化
自然環境の維持保全
グリーンインフラの実装

都市の持続可能性

産業構造の変化　産業基盤の維持・充実
地域資源・地域特性への着目
インフラ・公共施設の維持・更新
効率的な交通体系の構築

相乗効果や新たな価値創出の期待

多様な主体・分野との連携の推進
ＡＩ・ＩｏＴなどの新技術の進展
移動・伝達の広域化・高速化
モビリティ技術の革新

（２）本市における都市づくりの課題

本市の現況及び特性などを把握したうえで、都市づくりの課題を「都市の持続可能性を担保するための課題」、「人と地域を元気にするための課題」、「実現手段・プロセスの課題」に整理しました。

（都市の持続可能性を担保するための課題）

- ストック活用、保全及び誘導
- 都市のレジリエンスの強化
- 社会潮流を踏まえ様々な活動を支える「移動」
- 都市拠点や産業のポテンシャルを活かす土地利用の促進
- 自然環境や低未利用地の役割の付加

（人と地域を元気にするための課題）

- 多様な世代が健やかに暮らしやすい環境の確保
- 活力あるコミュニティや活動を支える場づくり
- 地域の資源の共有や有効活用

（実現手段・プロセスの課題）

- 市民協働の促進・市民活動との連携
- 公民連携・各種新技術等の導入

４　市民意見等の把握

（１）これまでの取組（令和５年度～６年度）

各地区や多様な年代における課題やまちづくりの意向を把握するため、郷土づくり推進会議を中心として意見交換を重ねるとともに、「市民アンケート」の実施や「ふじさわこどもまちづくり会議」等に参加しました。加えて、これからのまちづくりにおいて多様な主体との連携が重要となる観点から、次のとおり、新たな取組を実施しました。

１）団体ヒアリング

市内で活動する団体のまちづくりに関する意向を把握するために、市民団体、公的団体、企業等を対象に、活動等の状況や運営上の課題、今後の展望についてヒアリングを実施しました。

２）ブレスト会議

本計画の改定に向けた自由な意見交換とアイデアのブレインストーミングを行う場を設け、公募による市民や市内の活動団体等の皆様と「選ばれるまちってどんなまち」や「地域ごとに推したい長所や特徴」などをテーマに様々なご意見をいただきました。

ブレスト会議　募集チラシ

ブレスト会議　意見交換の様子

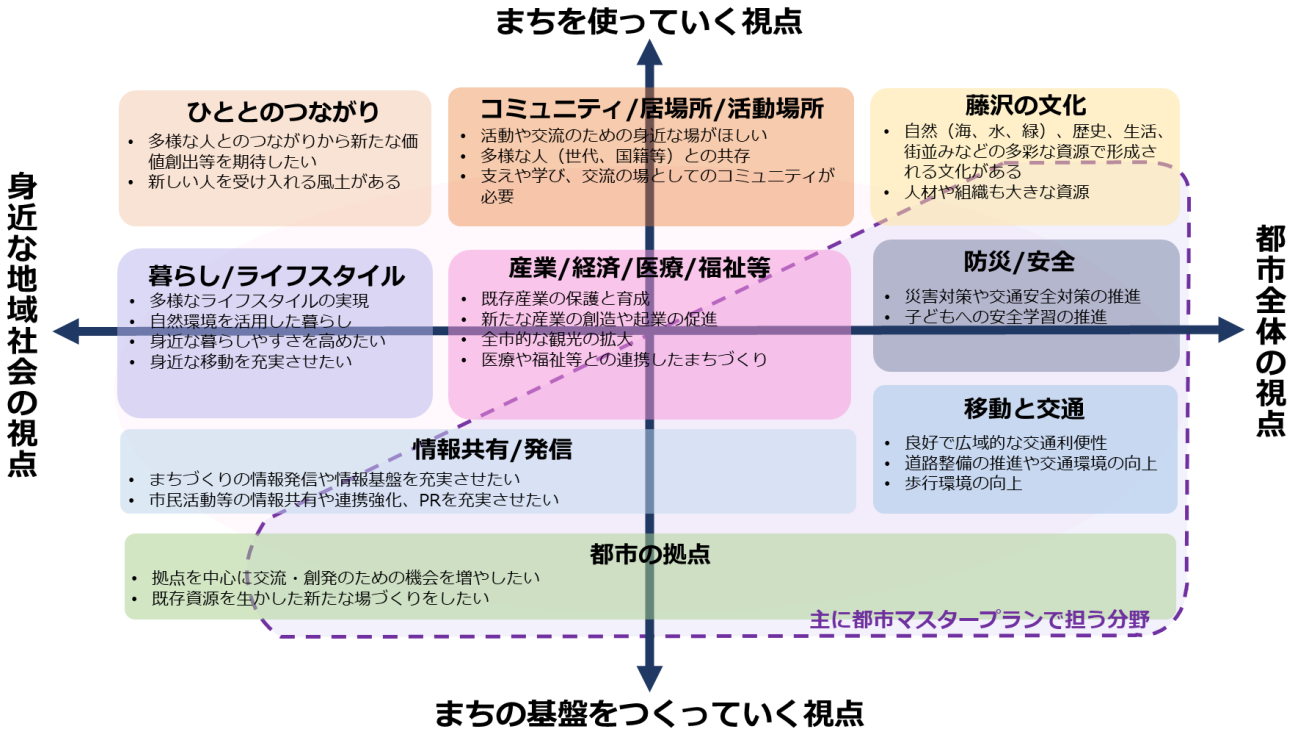
ブレスト会議　発表の様子

（２）今後の取組

今後も更なる意見収集や情報発信を行うため、パネルなどを設置してご意見をいただく「オープンハウス」や本市を訪れる方を対象としたアンケート、さらには「第２回ブレスト会議」等の実施を予定しています。

（３）市民意見等の体系化

これまでに得た市民意見を都市計画の観点から、横軸を「都市全体の視点」と「身近な地域社会の視点」、縦軸を「まちの基盤をつくっていく視点」と「まちを使っていく視点」として分類し、整理しました。



５　改定におけるテーマ及びポイント

社会潮流や市民意見、本市の都市づくりの課題等を踏まえ、改定計画を検討する際のテーマ及びポイントを整理しました。

（１）改定におけるテーマ

市民の暮らしを高める都市づくりが進められるよう、「ひと」を中心に「まち」をみることをテーマとしました。

藤沢に住み、働き、学び、憩い、交流する等、本市に関わる様々な「ひと」のより充実した生活や各種活動等の様子を「まち」を通して、フォーカスの合わせ方を工夫しながら、描くことで「藤沢の未来」を多様な主体と共有できるようにするとともに、より多くの「ひと」と共創したまちづくりが進められるよう、改定に取り組んでいます。

（２）改定にあたってのポイント

これまで目標としてきた将来都市構造の考え方は今後も中長期的な方針として念頭に置きつつ、次に示す観点を意識し、都市形成・まちづくりに積極的・計画的に取り込み、「持続可能な藤沢のまちづくりを進化させる」ことをめざします。

① **社会変化を見据えたまちのチューニング**にきめ細かく取り組む。

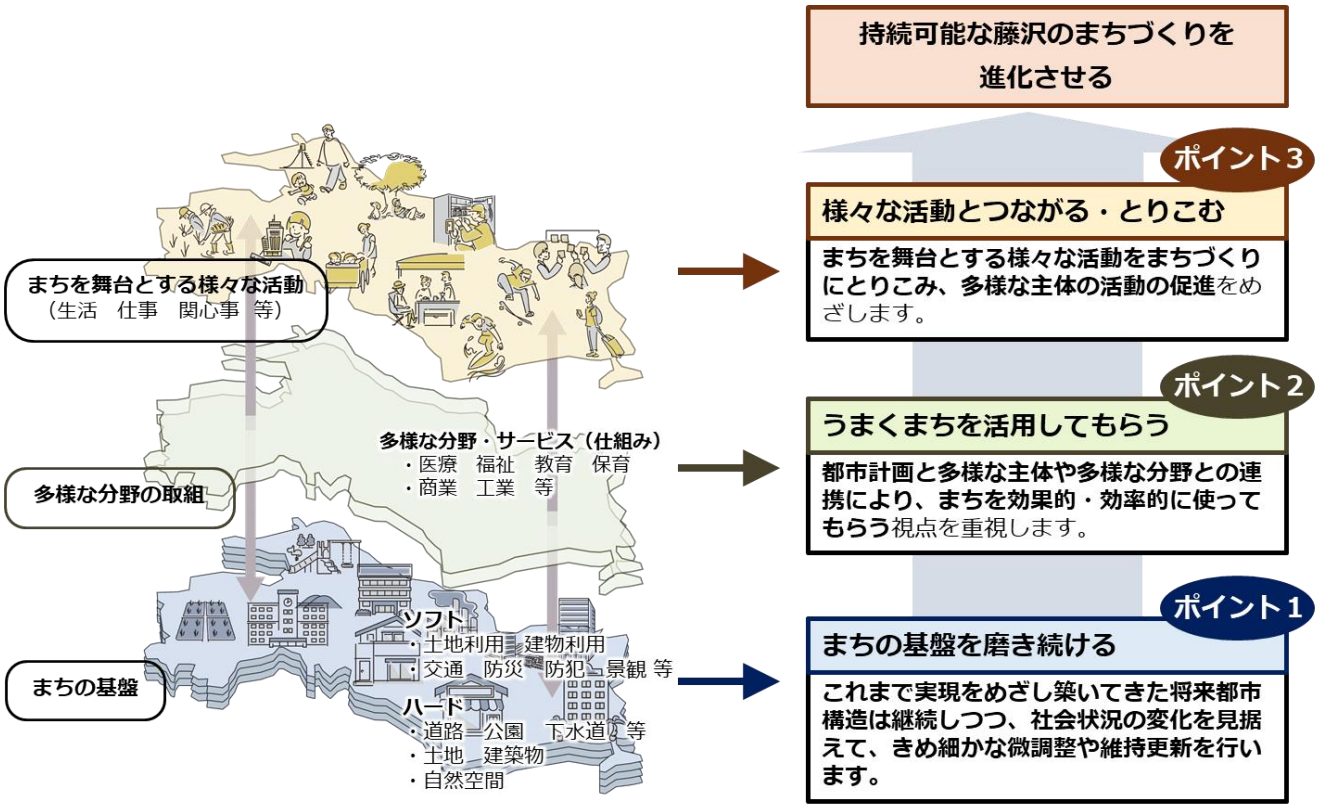
② まちを取り巻く**社会的課題や技術革新等から複合的なプラスを創出**できるよう、多角的なアプローチを図る。

③ **藤沢が輝くための原動力を生み出し続ける**ために、基盤を整え、磨き続ける。

④ **多様な活動とまちを結び付ける**ことでまちの魅力を高める。

改定のポイントの検討にあたっては、都市基盤等の「まちの基盤」と行政や民間等による「多様な分野のサービス・取組」のもと、生まれる「まちを舞台とする様々な活動」の三層に分けて整理しました。

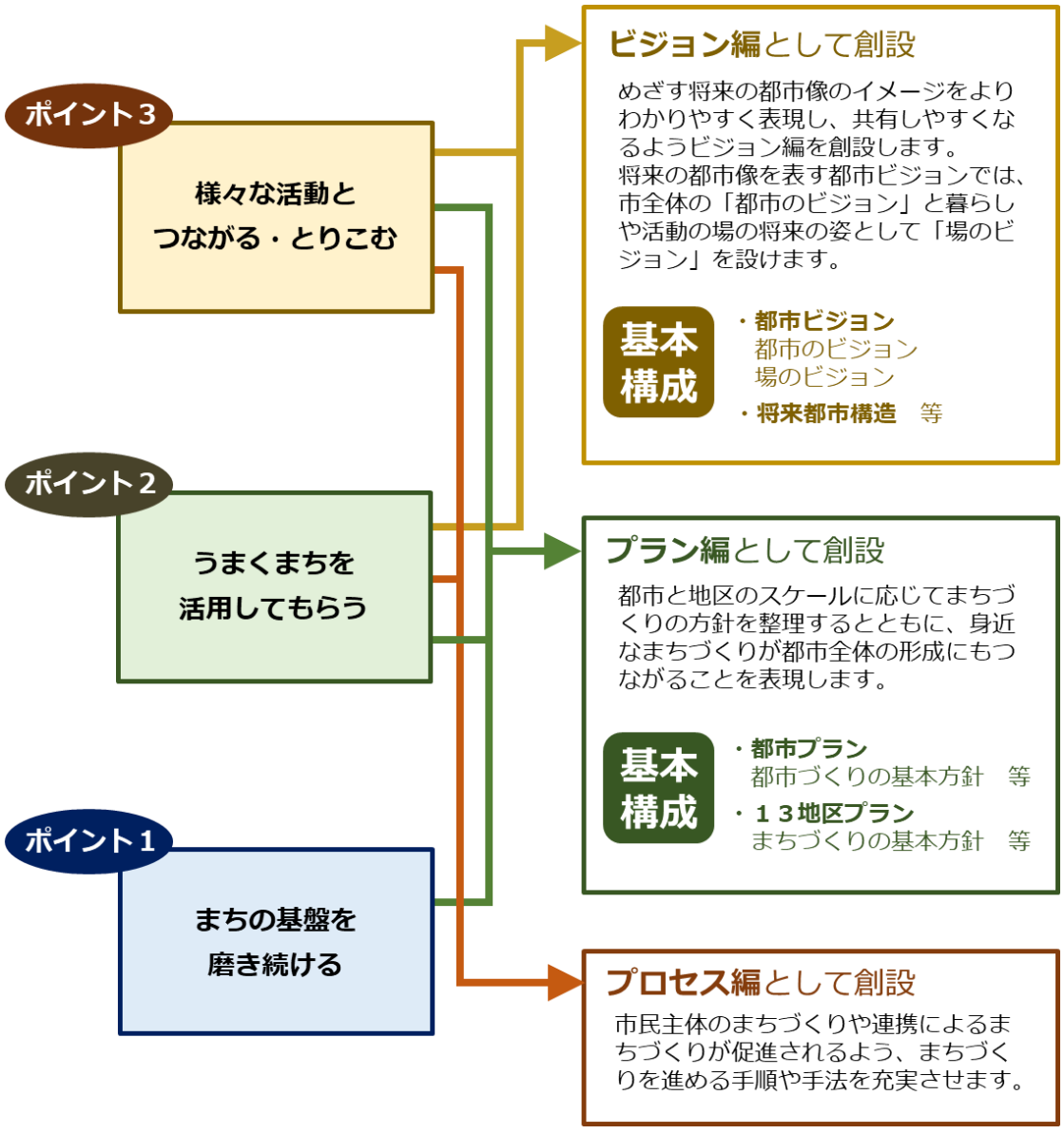
これまで現行計画をもとに、長い時間をかけて「まちの基盤」を築いてきており、新たに改定計画では「多様な分野のサービス・取組」において、「まちの基盤」をうまく使ってもらうという視点や、「まちを舞台とする様々な活動」がまちとつながる・まちづくりにとりこむという視点を追加します。



６　改定計画の骨格

（１）構成イメージ

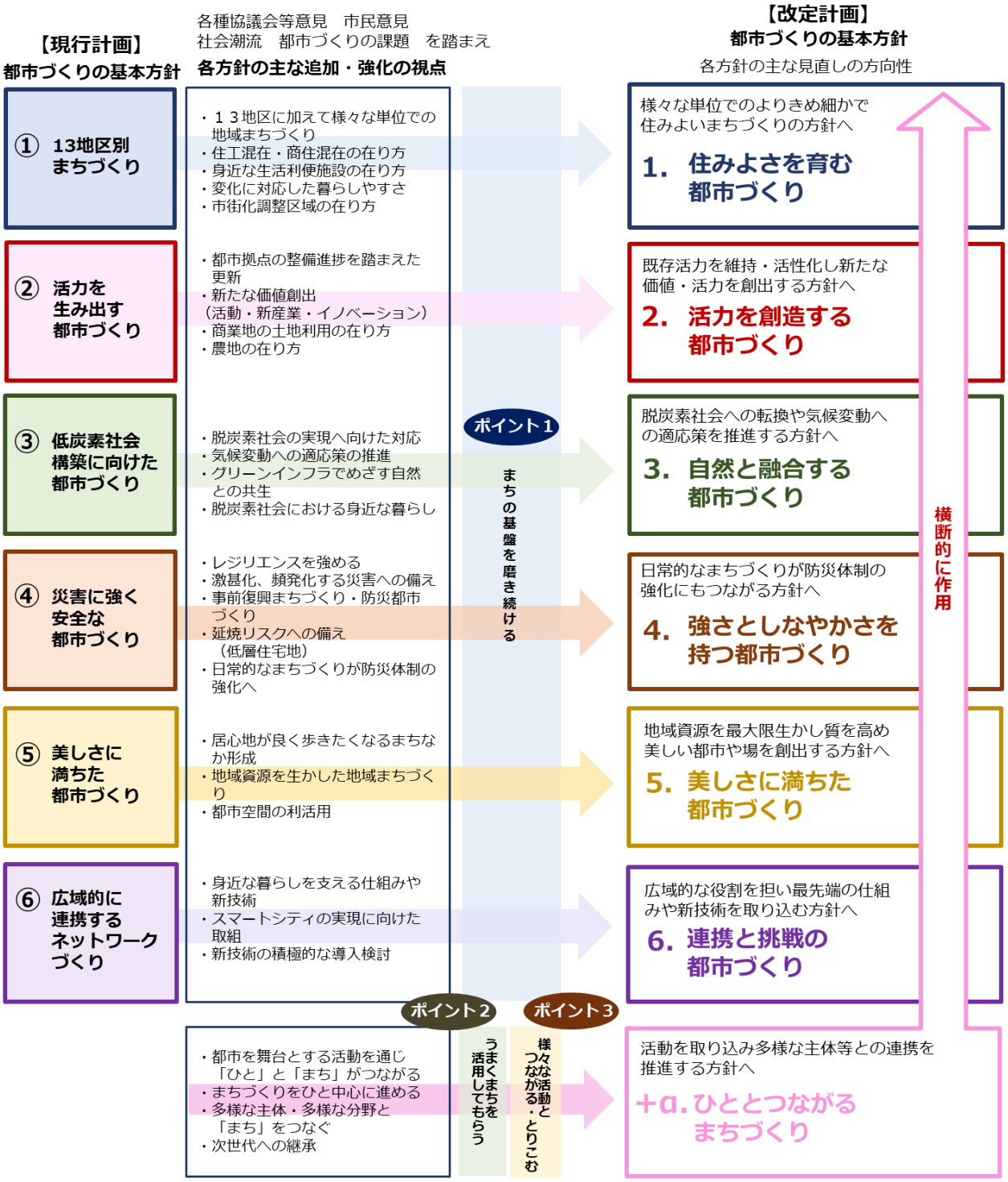
改定にあたってのポイントを踏まえ、より伝わりやすくなるよう改定計画の構成を次のとおりとします。



（２）都市づくりの基本方針

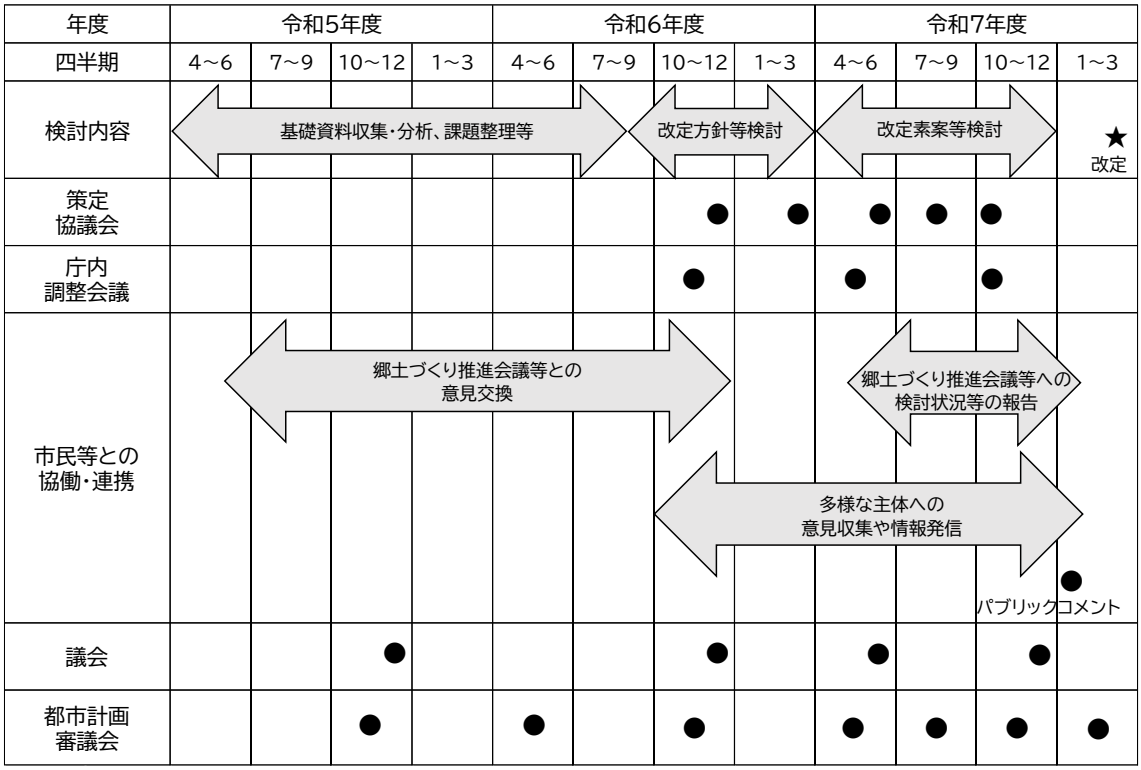
都市づくりの基本方針については、現行計画に追加・強化する視点を加えるとともに、改定にあたってのポイントを反映した上で、次のように再構築しました。

加えて、新たな方針として「ひととつながるまちづくり」を追加し、この方針が６つの方針にも作用することをめざします。



7　スケジュール

本計画の改定に向けたスケジュール案は次のとおりです。



以　上

（事務担当　計画建築部　都市計画課）